

国内ゴルフツーリズムの 楽しみ方を探る (秋田編)



～周辺の観光産業との連携を図り、
海外需要の取り込みも視野に～

本誌8～9頁で、今回の秋田視察の概要について掲載したが、ここでは今回体験してきた秋田県のゴルフツーリズムや参加者や観光施設の紹介をメインに取り上げていく。その前に、まず秋田県の紹介を簡単にしていきたい。

秋田県には16ものゴルフ場が存在し、温泉などの『自然』、なまはげや工芸品といった『歴史・伝統』、きりたんぼや稲庭うどんといった『郷土料理』があるなど、バラエティ豊かなラインナップで観光客を『おもてなし』してくれる。また国内の観光客だけに留まらず、海外から観光客への魅力につながるものも多数揃えている。ゴルフだけを楽しむのではなく、周辺の観光施設も満喫することが出来る場所であり、ゴルフを観光資源とする『ゴルフツーリズム』を実現できるエリアと言えるだろう。

周辺の観光施設と連携し、 ゴルフツーリズムを確立する

さて、今回の秋田視察は国内のゴルフツーリズムの可能性を探るべく、2月に本誌の特別企画であった「タイ視察旅行」に参加した

ゴルフ場経営者が中心となって実施され、男鹿GC(18H)で視察ブレイした(6月4、5日)。

同GCは国定公園内に所在し、既に近隣の温泉施設や宿泊施設との提携をしており、県内外のゴルフ観光客は年々増加しているという。そして同GCのレストランは、地元の住民にも気軽に利用してもらえるよう、一般開放もやっている。食事のみだったが、昨年はタイからの観光でゴルフ場を利用した団体客もいたそうだ。

秋田視察に参加したゴルフ場経営者や観光施設に、ゴルフツーリズムについて話を聞くことができたので、今回訪れた観光施設の説明と合わせて紹介していきたい。

まずは『伊東温泉』で有名な静岡岡県伊東市にあるリゾート施設『サザンクロスリゾート』の北村太一代表取締役社長に話を聞いた。同リゾート内には、FW乗り入れOKのサザンクロスCC(18H)の他、温泉付きの宿泊施設やプール、ドッグランもある本格的なリゾートコースだ。国内からだけでなく、台湾、中国などアジアからのインバウンドゴルフファー集客にも成功している。また、北村社長

は現在、伊東市の『インバウンド推進協議会』の会長も務めている。「私は伊東という観光地で仕事をしています。元々ゴルフツーリズムには多少なりとも取り組んでおり、潤っているエリアでした。現在のゴルフ場業界はゴルフツーリズムという意識があまりない。特に首都圏に近いゴルフ場、神奈川県辺りはほとんどないと感じています。私が社長になる前に、東京で営業をやっていた時に「ゴルフに来て下さい」というセールスではなく、「ゴルフ旅行に来て下さい」と言つてセールスを行っていました。伊豆というエリアは、小田原から先は海なのでお客さんの旅行気分も盛り上がりやすい。お客さんが家のドアを出てから帰るまでの「ドア・ツー・ドア」で楽しんで下さい」という売り方を行っていました。これこそまさにゴルフツーリズムだと思っています。当リゾートは伊豆シャボテン公園やねこの博物館、伊豆テディベアミュージアムなど、周辺にあるほとんどの観光施設のチラシを置いてあります。当リゾートに来ていただいた国内外のお客さんにこのような観光施設もあります



世界三景「寒風山」に隣接している寒風山回観展望台(男鹿市)。パラグライダーのメッカでもあるという



秋田空港の案内パネルに動画広告を出稿し、観光客にPR

庄タイプのコテージもクラブハウスに隣接しています。夏場に暑くなり、車で1時間圏内の埼玉県や群馬県のゴルフ場と提携することを目指したりします。

「なまはげ」のイメージが強いでしょうが、実際に足を踏み入れてみて、周辺に様々な観光資源があることに気がきました。やはり周辺との連携で、商品化を図っていかないと厳しいと思います。国内のお客さんが来ないところに、海外の観光客はまず来ないと思います。男鹿には国内のお客さんを呼べる資源が多々ありますので、この部分を掘り起し確立することが海外からのインバウンド集客にもつながってくるのではないかと思います。他県も秋田から吸収

よ」と周辺への送客にも力を入れています。全体的に伊東市を宣伝できればと伊東市のインバウンド推進協議会の会長としても思っています。今後も空港からも近く、温泉やレジャー施設も多数ある観光地伊東のPRに注力していきます。

これは私の持論なのですが、本来取り組むべきことはインバウンドではなく、国内マーケットだと思っています。本当は北海道や九州など、遠隔地からのお客さんにゴルフ旅行していただくよう動かなければならないのですが、しかし。外国からお客さんを誘致する前に、国内でやるべきことがあるのではないかと思います。ゴルフ場というよりは、商圏を広げる努力を我々はしていかなければならないと感じています」

「サニークントリークラブ」(27日)の小林祐治代表取締役社長に話を聞いた。「当クラブでは、2月のタイツアーを通じて、現在タイのゴルフ場との提携を進めています。やはり国内の地盤がないとインバウンドは成立しないと思います。当クラブが位置する長野県佐久市は避暑地です。宿泊施設も完備し、別荘タイプのコテージもクラブハウスに隣接しています。夏場に暑くなり、車で1時間圏内の埼玉県や群馬県のゴルフ場と提携することを目指したりします。また周辺にはワイナリーがありま



鈴木酒造店（大仙市）で地酒の説明をする鈴木直樹代表。日本酒「秀よし」ブランドは全国的に有名だ

できることも少なくないと感じています」

近隣の観光施設と一体となる ゴルフツーリズムの実現へ

最後に登場するのは、今回の仕掛け人である男鹿ゴルフクラブ（秋田、18H）の國安玲佳代表取締役社長。

「現在、男鹿市近郊だけでなく、県南・県北や隣県にもPRを強化していこうと思っています。男鹿から秋田市内までは45kmくらいで、車だと約1時間です。さらに県南だと1時間半くらいかかりますが、そちらの方面からでも「男鹿GCのメンバーになりたい」と言っている方が多いからです。初めてお越しいただける方にも快適にプレーしていただくために、テクノク

ラフト社製のGPSカーナビも導入しました。

また、クローズ期間である来年の2月に、とある旅行会社主催の秋田空港発着のチャーター便（タイ国際航空）を利用し、タイへ行く予定を立てています。現在、メンバー様や周辺の観光施設の皆様に声掛けをしていく予定です。これまではタイへ行くためには、関東もしくは関西の空港を経由しないと行けませんでしたが、タイへの直行便は初の試みで、1500〜2000人規模になる予定です。その際、タイからも観光客の方々がお越しいただくので、男鹿はもちろん、秋田の良さをPRできたいと思っていますし、今後も地域観光の起爆剤となれるよう努めていきたいです」

今回、この秋田視察に参加したサザンクロスリゾートの北村社長は男鹿GCと提携する予定だとい、またサニールCCの小林社長も2コースとの提携を前向きに検討しているという。

2月のツイッター後にゴルフ場経営者同士で交流が進み、相互のゴルフ場を視察して、具体的に国内での友好提携を進めているケ

スが出てきているが、海外のゴルフ場との提携だけではなく、国内のゴルフ場と提携することは、ゴルフツーリズムがより定着するきっかけとなり得るだろう。

最後に秋田のゴルフツーリズムとして、訪れた観光施設をいくつか紹介して本特集を終えたい。

戸賀湾を見下ろす絶景の温泉旅館「帝水」のおもてなし

男鹿半島に位置しており、戸賀湾を見下ろす絶景の温泉旅館「帝水」は、遮るものひとつないその景観で自然と調和している。また、JR男鹿駅からホテルまで送迎を行っている（事前の予約が必要）。ここで帝水を経営している、株式



帝水の客室。国内外の団体客にも対応できる



男鹿GCでは宿泊施設と提携し、ゴルフ宿泊パックプランを展開

会社オールフロンティアの平林拓郎代表取締役社長に話を聞くことができたので紹介したい。「受け入れ体制は整ってはいると思いますが、現在海外からのお客様の利用はまだ少なく、国内のお客様がメインです。関東、秋田を除く東北地方、秋田県内の方にご利用いただいています。比率ですが、3エリアとも1/3ずつぐらいです。男鹿GCとは、2年ぐらい前から業務提携を行い「ゴルフ宿泊プラン」を展開しており、利用率はまずまずです。提携のきっかけは、國安社長から打診があったからです。秋田県は東北地方で一番インバウンドが弱い県なので…。今後は行政も力を入れていくこの

とで、国内のお客様と並行して進めていきたいと思います。男鹿の良さを再発見していただくという意味でも、秋田



満席で立ち見も客もいた「五風なまはげ太鼓ライブ」

県内に在住の方にもっと利用していただきたいなと思っています。男鹿は30、40年前はかなりの観光地だったのですが、今の若い世代はそれ自体も知りません。男鹿には古く歴史がある観光資源が残っているのも、もっと地元を知ってもらいたいです」

今や秋田を代表する人気イベント『五風なまはげ太鼓ライブ』

秋田といったらやはり「なまはげ」が代表的だろう。男鹿半島の北側に位置している男鹿温泉郷（男鹿市）では、国指定重要無形民俗文化財「男鹿のなまはげ」と、日本古来の「和太鼓」を融合させ

た古くて新しい男鹿独自の郷土芸能『五風なまはげ太鼓ライブ』を定期的に公演している。この勇壮ななまはげ太鼓の常設公演を行っているのは、世界でここだけとあって、国内外の観光客から非常に人気だという。この演奏を行っているのは、地元の若者でつくる太鼓団体「恩荷」（おんが）だ。これは男鹿市在住の有志で設立した和太鼓団体で、男鹿温泉郷をホームグラウンドに精力的な活動を行っている。男鹿温泉での太鼓ライブのほか、各種イベント、キャンペーン等に引つ張りだことといい、出張公演も実施しているという。また、男鹿半島あいのりタクシー「なまはげシャトル」を使うと、男鹿温泉郷となまはげ館や男鹿水族館GAOなど男鹿の主要観光スポットを行き来できるので、男鹿温泉郷を拠点に男鹿観光を楽しむことも可能だ。

1860年創業の佐藤養助商店『稲庭うどん』の創作体験

秋田県の食に対して、真っ先に「きりたんぼ」を想像する人も少なくないだろうが、秋田県湯沢市稲庭町で作られている「稲庭うどん」



稲庭うどんで有名な佐藤養助商店

「ん」は日本三大うどんの一つに数えられている。この稲庭うどんは手延べ製法による干しうどんだ。秋田県内に約70社もの製造販売業者がある中でも、宮内省へ献上したこともある「佐藤養助商店」（湯沢市）は、1860年創業の老舗で、県内一の有名店であるという。今回の秋田視察では、最終日（6月6日）に「稲庭うどん」の創作体験を行ってきた。佐藤養助商店には、気軽に職人気分が味わえる「製造体験コース」と、稲庭の里でおいしさを知る「製造・調理体験コース」の2種類があり、どちらも国内外の観光客から人気だという。

また今回、訪れた秋田の宿泊・観光施設、いずれも共通しているのはHPの充実度である。HPは日本語だけでなく英語にも対応していたり、定期的なブログの更新、またはSNSなどの情報ツールを生かし、観光資源が誘客に結び付きつつあるようにも感じた。ゴルフツーリズムを通じて、秋田の魅力を国内外に発信することの重要性を肌で実感した。

最後になるが、国内外の観光客誘致に共通なのは、ゴルフツーリズムの成功の鍵は、周辺のホテルや観光施設等との協力で他ならない。地域が一体となるのが国内をはじめ、海外の観光客の誘致に成功する秘訣だろう。まずはゴルフ場と地方自治体、地域産業との連携強化による地域経済の活性化を図り、「国内ゴルフツーリズム」を構築する必要があるのかもしれないと感じた。文化や観光資源、地域物産との連携を図り、より魅力的なゴルフツーリズムが提供できる体制を整え、次のステップアップとして「インバウンドゴルフアーキ集客」に取り組んでいくことがゴルフツーリズム成功への近道なのかも？ shouldn't be.